

工学部ガイダンス 20050404

教務委員長あいさつ骨子 (10分を目安)

教務委員会: 学生さんが勉強したくなるようなしくみを作る、教員がサボらないで教育をするようなしくみを考える、委員会。契約書である学修要覧に記載されているカリキュラムや教育方法・仕組みを考える委員会。自己紹介 (卒業生である、弓道部の顧問)

1. 学修要覧は契約書

- あなた方が卒業するまでの4年間の教育プログラム。学科には教務委員、クラス担任 (より広い範囲)、教務課職員。皆さんを大人として対応します。先ほど言った、考える→調べるといのはじめに話した循環プロセスを忘れないでください。それを怠って一年留年なんてことにならないように。
- あなた方が本大学のそれぞれの学科を選んで入学したことにより、この契約は発効していると考えていいと思います。しかし、一方で、アブラハムリンカーンはこのように言っています、「相手の承諾なしに他人を統治あるいは支配することができるほど立派な人間は一人もいない」

2. よく考えよう・記録をきちんととる

- **考える→書いてみる→調べる→尋ねる→良く聞く (→実行する) →考える (ループ)**
- 調べる前に良く考える→自分の考えのどこがいたらないかを知ることができる。人にものを尋ねるときには、可能な調査をしてから、が礼儀。実行してみて、不十分であればまた考える、という繰り返し。
- 人間は忘れます。聞いているときには、わかったような気持ちになりますが、それは100%蓄積されて有効利用されると思ったら大間違い。はがきサイズのノートが良い。いつでもポケットに入れて持ち運べるし、いつでも出してちょっとメモることができる。
- **自分流のノートを作るべし**。黒板にかかれたことを写すのがノートではない。

3. どのように学習教育環境を使うか

- 先生は経験と知識を豊富に持っている。知識を吸収するためには、**本と先生を併用**するのが良い。先生の知識は、偏っていたり不正確だったりすることもある。経験は大切であり、貴重である。先生の体験談によく耳を傾けてください。
- 実験や実習などの科目での体験はもちろん、インターンシップ、現場見学、国際研修など、みずから体験をする機会を積極的に活用して下さい。与えられたものより、自分から進んで得た経験から得られる果実はとても大きいと考えます。工学部ではフィジー共和国、環境情報ではオーストラリア、中国などでの海外研修が用意されている。
- また、**大学は教わる場所ではなく、自分で学ぶところです**。先生方は、よりよい授業をするよう努力はしますが、無免許であります。わからなくなったら、考えるサイクルに入ってください。難しい、習ったことがない、という状況は、自分を一步高めるチャンスと思いませんか。フォードモーター創設者である Henry Ford は次のような言葉を残しています。

Obstacles are those frightful things you see when you take your eyes off your goal.

「目標から目を離したときに障害は恐ろしいものとなって目に映る。」

4. 教育は与えられるものではない。

教員は、教授し評価する。学生は学習する。しかし、教育について評価もする権利とある意味では義務をもつ。サーバとクライアントの関係。

最後になりますが、

どうか、4年たって卒業するときの自分の姿を今から描いてください。卒業後10年たったときの姿、30年たったときの姿を描いてみてください。自分が生きた証をどのようなかたちで後世に残してゆくかを考えてみてください。いまからそうすれば、その目標に向かっての努力は楽しいものになるはずです。楽しくなれば、もう成果は保証されたようなものではないでしょうか？

Sir Winston Churchill (1874 - 1965) 政治家・作家

第二次大戦中にイギリスの首相を引き継ぎ、反ナチス陣営を勝利に導いた。戦時で非凡な指導力を発揮した政治家として名高い。名文家としても知られ、1953年にノーベル文学賞を受賞。

私たちは得たものによって生計を立て、与えたものによって人生をつくる。

We make a living by what we get, we make a life by what we give.

時間はちょうど良かった。